

# パンダの赤ちゃんはなぜ死んだ

元関 富士雄

上野動物園のパンダ出産の喜びと数日後の悲しみは、まだ皆さんの記憶に新しいことでしょう。新聞には『パンダの赤ちゃん、肺炎で死亡』とありましたが、原因は乳汁を詰まらせ窒息死したようです。こうしたことは、パンダだけでなく人間にもおこりやすいリスクなのです。厚生省が発表した昨年の死因では、肺炎は癌・心疾患に次いで3位となりました。また、窒息や（誤嚥性）肺炎は高齢者の死因のトップです。暫く前には、少年のコンニャクゼリー窒息死事故が記憶に残っています。

なぜこんなことが起きるのでしょうか？

こうした窒息や誤嚥は陸上生活をする生物にとって宿命なのです。呼吸と栄養は、咽頭という喉の部分で共同使用しています。しかし、同時にはその部分を使用することができません。そのため、呼吸と栄養の切り替えポイントを持つことによって窒息というリスクから生命を守ることになりました。

それでは、呼吸と栄養の切替えるチカラはどのようにして獲得するのでしょうか。

赤ちゃんは、生まれてすぐにオッパイを飲むことでこの切替えを行うことができるようになり鼻呼吸と口呼吸ができるようになります。つまり、飲み込む機能の上達が呼吸機能を上達させるのです。睡眠中に口呼吸でいつも寝相が安定しない赤ちゃんに口を小さくした哺乳瓶を与え、力強く飲み込むようにすると、わずか2週間で睡眠中の口呼吸や寝相が改善したという報告からも、飲み込むチカラを育てることの大切さがわかります。



また、乳児は異物を飲まないように嘔吐反射をもっていますが、いつまでも持ち続けることは、呼吸と栄養の切替えを低下させます。少しの刺激でも嘔吐反射を招く過敏な口感覚を早く取り除き、口のマッサージやうがいを長い時間できるようにすることが大切です。そして、力強い咀嚼と嚥下力が窒息という生命の危険から身を救うのです。

あなたは安全な口を持っていますか？